

# 編集後記

今号の首長インタビューは、勝浦市の猿田市長をお尋ねしました。猿田市長は、長年にわたり千葉県職員として市町村課長、商工労働部長などの要職を歴任された行政のベテランです。インタビューでは、含蓄のあるお話が随所に伺えました。「東京に近い千葉県において、農商工連携が進まないのは、千葉県の宿命」というのもその一例で、東京に隣接するメリットも大きいですが、デメリットもそれなりにあるという話でした。大東京の影に埋もれず、千葉県の独自性を打ち出していくことには常に困難な問題が付きまとい、悲願といえるかもしれません。

もうひとつは「千葉県は日本の縮図」です。過密と過疎の同居する千葉県をあらわしたものです。私は、東京自治研究センターが主催する首都圏人口減少研究会に参加しています。昨年10月の研究会で、千葉県の人口動向等についてレポートを報告しました。その概要を「千葉県は日本の縮図－猿田市長インタビューから考える」として掲載させていただきました。猿田市長のお話とあわせて、千葉県の人口動向等についても少しでも理解を深めていただければ幸いです。

昨年9月に安保関連法制は成立しましたが、その後も安保関連法制に対する取り組みが継続しています。今夏の参議院選挙では争点化の動きもあることから、鳥根県立大学名誉教授の井上定彦先生に安保法制成立後の動向を中心に執筆いただきました。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックがマスコミ等で騒がれていますが、千葉県での開催状況があまり伝わってきません。千葉県での開催競技の現状と問題点について、千葉県議会議員の鈴木陽介さんに丁寧にレポートしてもらいました。

お二人の論文・レポートが今号を深みのある充実したものにしていただいたと思います。これからも千葉県内の地方自治関係者をはじめとした読者の皆さんに役立つような時宣にかなった企画や情報提供を心がけていきます。

事務局長 佐藤 晴邦

## 自治研ちば 既刊案内



2015年10月  
(vol.18)

- 巻頭言 理事長 法政大学法学部教授 宮崎 伸光
- 千葉県地方自治研究センター 第7回総会  
基調講演 「地方創生と地方自治」 ～地に足をつけて考える～ 読売新聞本社編集委員 青山 彰久
- 夕張市調査団報告 地域の再生に挑む「夕張」のいま ～夕張市を訪問して～ 自治労銚子市役所職員労働組合 大網 裕弥
- 公共の担い手 「千葉県労働者福祉協議会」  
生活困窮者自立相談支援事業等への取り組み 千葉県労働者福祉協議会 小柳 光廣
- 指定廃棄物最終処分場（長期管理施設）をめぐる現状と問題点  
千葉県放射性廃棄物を考える住民連絡会 事務局長 藤原 寿和
- 県議会報告 男女ともにいきいきと輝く平和な千葉へ！  
千葉県議会議員（松戸市） 安藤じゅん子
- シリーズ千葉の地域紹介  
白子町 九十九里浜の温暖な気候と豊かな自然に恵まれたまち  
白子町役場 住民課課長補佐 北田 和弘
- 新聞の切り抜き記事から 研究員 鶴岡 美宏
- 今期の入手資料 編集部
- 編集後記 事務局長 佐藤 晴邦
- 一般社団法人 千葉県地方自治研究センターの概要（会員募集）

バックナンバーの申し込みは当研究センターまで 1部800円

## 自治研ちば VOL.19

2016年2月 日発行  
発行 一般社団法人  
千葉県地方自治研究センター  
〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10  
千葉県教育会館新館6階  
自治労千葉県本部内  
TEL 043-225-0020  
FAX 043-225-0021  
編集 佐藤 晴邦  
印刷 (株)メロウリンク企画  
頒価 800円（送料別途）